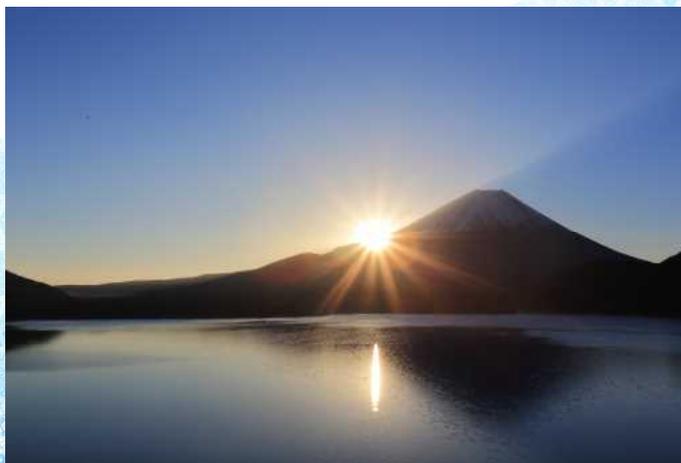


一月の俳句

(2 0 2 0 / 0 1)



目次

た べ も の 俳 句	モ ー ロ ク 俳 句	歳 時 記 俳 句	
14	10	1	
）	）	）	

今年も私も後期高齢者の仲間入り。

ブログで頭の体操、モーロクしないようにと俳句を作り始めました。この手作り句集はそれを取りまとめたものです。ブログは次のアドレスです。ほとんど毎日更新しています。気が向いたらお気に入り登録してください

(宇佐美 保幸)

巣鴨とげぬき徒然俳句

<https://blog-haiku.777usami.com>

新年も三時に起床初起動

初詣人の欲望見え隠れ

迎春を感謝はすれど老いの坂

破魔矢手に正月だけの神仏（かみほとけ）

みくじ凶破魔矢に結び飛んでゆけ

タツパーのおせちを並べ年新た

コンピナート灯り途絶えず初日の出

初日の出なぜか信心今日だけは

正月も尖閣諸島波高し

お正月トイレに飾るカレンダー

コップ酒並べて祝ふお正月

石ころも仏か神かお正月

われら皆むかし子供だお正月

寝正月うつらうつらと宝くじ

いちにちのたつのが早い三が日

三が日禁酒解禁吟醸酒



どこでもドアついに手に入れ初夢で
枕元歳時記積んで初夢を
佳きことがある年でこそ初夢を

そういえばいまのLINEが初メール
初句詠みまだまだまだと余生かな
初読みや古本句集あれこれと
笑い顔顔体操の初鏡

七福神詣でをすませ蕎麦と酒
七福神詣でカイロを腹に背に

年新たカメラ増設神社にも
年明ける食器洗い機稼働中
新しきヒートテックで年立てり

目薬も目から漏れたり寒の入り



表札に狂犬注意去年今年
煩惱があればまだ良し去年今年
こともなく過ぎしがごとし去年今年
ただ生きるそれで十分去年今年
とにかくも生きているのだ去年今年
だんだんと葉の増える去年今年
去年今年コンビニ弁当男女あり
おひとりさまコンビニ弁当去年今年
話す日も話さざる日も去年今年
去年今年五百羅漢は苔むして
すれ違ふ夫婦であつて去年今年
老衰が増えてめでたし去年今年
要はどう尊厳死なのか去年今年
後十年すでに何年去年今年
定食屋親子三代去年今年
お決まりの神社参拝去年今年
様々な音も匂いも去年今年



日向ぼこ考えること赤信号
日向ぼこ煩惱ばかりが増殖す
日向ぼこ増える白髪と煩惱や
日向ぼこあの世の入り口並び待つ
坊さんも経典横に日向ぼこ
句集手に句より睡魔だ日向ぼこ
つかのまに冥土を見るか日向ぼこ
歳とれば病氣自慢の日向ぼこ
生き死にの話も出たり日向ぼこ
日向ぼこティッシュペーパー横に置き

行く先は雪をかぶった寒牡丹
寒牡丹コモは邪魔だと陽を求め
冬牡丹ただ黙然と月の下

ともかくも通勤電車寒日和
氷点下鞆馬調教汗蒸気



見つめれば花をすぼめる福寿草
福寿草ここにもあそこ金貨かな
月の下一人で遊ぶ福寿草
善意とは恐ろしきもの福寿草

私待つあみんが歌う冬木の芽
待つことができる老人冬木の芽
沈黙をいつ破るのか冬木の芽

水仙が白く群れ咲く瀬戸の島
水仙や瀬戸の光と島の風
水仙の香やあふれて島覆う
咲けばこそ「竹の水仙」甚五郎
水仙の蕾みを生けて花咲かす
水仙が灯台守り島守り
海までを香り閉じ込め島水仙
少年は憎む日もあり水仙花
水仙は欲望無くて花咲かす



パン焼いて届けぬ風邪の孫達に
風邪声も美人ならこそ許される
友からのラインで風邪を貰いけり
風邪の神少し休めとのたまわる
街散歩噂にされて大きくさめ

まんまると茅の輪の先の宇宙かな
温暖化大寒の日もぽかぽかと

カフェテラでひとりで泣いて冬うらら
冬うらら目薬あふれパンダ顔

葉牡丹の渦に戸惑うときもあり
葉牡丹は世間の噂も包み込む
葉牡丹は寄せ植えされて主張する
葉牡丹が緩んで緩む日差しかな



真冬日の過疎地のバスは二便のみ
真冬日の神経質なLED

草枯れて人も枯れたり真冬かな
大和堆真冬日あらん巡視船

凍空に希望の星を数えけり

寒椿何も求めず紅く咲く

咲いたとて無視され淋し寒椿

着ぶくれてホットコーヒー舌を焼く

着ぶくれて輪島女は活気あり

寝てるのか冬のメダカを見て飽かず

年寄りには冬のメダカを見て飽かず

初天神異国の人も手を合わす



吹き上がる津軽の雪は五能線
雪の日の床びしよ濡れの山手線
雪の日は聴くともなしに吉幾三
雪の日にパソコン演歌吉幾三
死ぬときは雪の降る夜に眠りたい
何もかも忘れて雪の露天風呂

冬ざれの地蔵通りの饅頭屋
冬枯れの路地裏歩き街中華

寒風呂にこのまま冥土と望みしか
寒鴉弱肉強食餌競う
カピパラも猿も温泉寒き日に



冬銀河リニアで行きし十萬億土
冬銀河新幹線はいつ開通

ドブ川も氷が張れば清流に
南極の氷でロック永久の音
樹氷林しんしん眠る八ヶ岳

春隣カレイとヒラメの目玉かな
特段に何もなければ春を待つ
ふくよかに笑顔が揃い春隣



モーロク俳句

モーロクし一言嬉し明けの春
初詣モーロクすれど願いなし
モーロクし孫に完敗歌留多取り
破魔矢などモーロクすればむなしさが
モーロクし平穏平熱お正月
元日やモーロク脳よまだ頼む

モーロクし馬鹿な初夢億万長者
モーロクしつぎつぎ流る初夢や

モーロクし挫けぬための寝正月

モーロクし初餅焦がし叱られて
餅食べて入れ歯が外れモーロクす



モ一ロクし世間とかいり去年今年
去年今年他力本願モ一ロクし

モ一ロクししかししぶとく寒が来て
モ一ロクしこじつけ多し雪が舞う
モ一ロクし風邪熱の夢色はなし

初蝶やモ一ロクしても遊べやよ
初蝶よおいらモ一ロク認知症

モ一ロクし乾き乾いた日向ぼこ
モ一ロクし病氣自慢の日向ぼこ

水仙が咲きぬモ一ロク進展す
モ一ロクし頬骨尖る水仙花

モ一ロクし雑炊までも味気なく



モ―ロクししまい忘れて寒月や
不器用に生きてモ―ロク葱を切る
モ―ロクし山盛り作るおでん鍋

モ―ロクし何も望まず寒椿
モ―ロクし赤が嫌いに寒椿

くしやみしてすべてを忘れモ―ロクし
モ―ロクし話すことなく冬野かな
大寒やモ―ロクしても謀りごと

冬銀河モ―ロクすれば遠くなる
モ―ロクし黄昏の齡の冬銀河

モ―ロクし静かな時間冬木の芽
モ―ロクし心臓確認冬の夜
モ―ロクし無理矢理楽し日脚伸ば
モ―ロクし三寒四温鼻水を



スマートフオンモーロクすれば冬の闇
雪女モーロク無縁羨まし

モーロクし口あんぐりと冬夕焼

モーロクしそれはそれにて冬林檎

モーロクし無駄でもやはり風邪薬

モーロクし増してくすぶる冬ごもり

モーロクし毛布に蒲団冬ごもり

モーロクし家を出ぬ日々冬の日々



たべもの俳句

お正月おせちちほどほどパスタ茹で

無国籍雑煮つくりてめでたけれ
結びたる三つ葉を添えるお雑煮に

数の子を堅きと感ず老いし口
数の子は音を食して日本人

餅を焼く膨らむ中に我もあり
四角が丸に即ち餅焼けたり
帰京せりバッグの中に田舎餅

タイラギを肴に備中純米酒
たいらぎを肴に瀬戸の純米酒



きんぴらを濃き味にして寒の入り
ぐらぐらと乾麺茹でて寒の入り
うめぼしの赤が際立つ寒の入り

クレージーソルト七日粥に一振りし
胃潰瘍七草がゆは胃に優し
七日粥塩を選びてひとつまみ
七日粥季節の粥の長寿かな
湯気みどり七草がゆに梅干しも

一月の甘納豆はダイエット
甘納豆猫のお昼寝冬の午後
岸壁のゆで干し大根海風に

床の間に白菜そのままいけてみる
白菜をとろとろに煮て感謝する



白菜をスパッと四つ割り正宗か
白菜を切るや正宗一気なり
白菜がゆるく巻かれて忘れられ
道の駅白鳥のごと白菜が
ふつふつと白菜ポトフ冬ごもり
白菜は頭くくられ雪野原

牡蠣すする尊厳死などありもせず
牡蠣を焼くしばしが長し開くまで
体内は古代へ還る牡蠣食べて

牡蠣フライはねる油に叫ぶ妻
お日柄の良き日婚活牡蠣フライ
牡蠣フライいくつ食べれば雪が降る

セレブなりデパ地下並ぶ焼き芋は
フェラーリで石焼き芋を売る人も
焼き芋をあなたを食べて腹ふくる



寒ブリは北海道に引越しか
温暖化北海道にぶり集う
ブリブリと寒鰯泳ぐ鰯しやぶに

熱々の白粥こそはと冬の朝
白粥にピンク岩塩一振りし
紅ほのか宇宙を食す小豆粥
紅やさし胃にもやさしき小豆粥
飽きもせず卵お粥で冬の朝

冬深し男が仕込むモツ煮込み
鯖味噌定食口は味噌味昼の雪
血を止めて寒鯛の眼ぎよろぎよろり

おでん煮て夜まで待って一人酒
水彩画おでんの大根何色で
おでん屋のとどまるところカップ酒



コート
の襟立て
たままの
おでん酒
碁会所
で対局あ
とのおで
ん酒

そばめしは魅惑のダブル冬の闇
受験生真冬の夜のスープかな
豆腐屋の真冬の朝の揚げ豆腐
角砂糖ゆつくりと溶け真冬なり
まつさらな空も急変冬林檎

寒卵飲んで六腑に命あり
寒卵二つ加えて卵とじ
理屈なく感謝感激寒卵
卵焼き冬を閉じ込め朝ご飯

葱刻む男の料理自画自賛
葱白く心も白く息白し
シヨパンかけ葱刻む音合奏す
泥葱を冷たき水で白肌に



白ネギの裸を切って手術する
失恋も二度三度まで葱を切る
威張っても葱は葱ですお味噌汁

割干しもメイーンドイツシュウ肉と煮る
カリフラワー白さ追求日本人
オリブオイル卵ご飯に今朝の冬
雪見酒焼鳥焼きトン焼き魚
冬の朝釜揚げうどんフウフウと
釜揚げうどん生姜たつぷり葱刻み

豚汁に焼き餅一個冬の朝
豚汁に何を加える冬の宵
豚汁に生姜たつぷり寒き朝
豚汁に餅を加えてまた雑煮

湯豆腐にみどりも加え春間近
お豆腐もお湯につかれば幸せに







